

富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布してい

大型ディスプレイ、デジタルサイネージ(掲示板)等を購入しました

聴覚障害者情報提供施設運営補助金「情報化対応特別管理費」による国と県の加算制度を活用して4年目。今年度は75型大型ディスプレイ、65型デジタルサイネージディスプレイ、ワイヤレスアンプ、ビデオカメラ用三脚等を新たに購入しました。デジタルサイネージは、ポスター・チラシの代わりにディスプレイで表示する掲示板です。例えば、耳の日福祉集会や字幕付き映画の案内、センターの部屋の貸し出し状況等を順次仮面が切り替わって掲示し、来所者に情報を提供します。大型ディスプレイは大研修室、デジタルサイネージはコミュニティサロンに設置しておりますので、ぜひ見ててください。



75型大型ディスプレイ

デジタルサイネージ

前月号に掲載しました来年度予算への要望について、障害福祉課・県立学校課より、次の通り回答を頂きました。(抜粋)

- 富山県手話言語条例に基づく施策の充実について
→今年の「手話言語の国際デー」にブルーライトアップを実施し、手話の普及啓発に取り組んだ。手話施策推進協議会の開催数については柔軟に対応していきたい。
- 障害者総合支援法・意思疎通支援事業の充実について
→国の通知の趣旨なども踏まえて、派遣対象範囲の統一について市町村と協議していきたい。顔写真入りの登録手話通訳者証への更新は相談させていただきたい。
- 切れ目のない難聴児の支援等の施策について、協議の場への当事者の参加について
→関係機関との連携については障害福祉課で担当する。子育て支援の部署、聴覚スクリーニングの部署、教育委員会も一緒に入って考えていきたい。
- 公共施設のバリアフリーについて
→富山県文化振興財団では、管轄の文化施設職員が全国手話検定試験を受験する際の費用を助成する制度を設け、窓口での対応向上に努めている。
- 聴覚障害教育の充実について
→特別支援学級の担任の先生の研修について、学級そのものが非常に増えてきている。一人学級がほとんど。多くの担任の先生のために新たに研修機会を設けるのは、現状では難しい。



センター利用の実績 12月21日～1月20日

- 来所者合計 約 292名
聴障者約 147名、健聴者約 145名
- コミュニケーション支援 70件
- ライブラリー貸出 2件 7本
- 相談対応 6件 ●部屋貸出 17件

★センター運営募金・募集郵便振替口座；
00790 - 0 - 93002
名称；富山県聴覚障害者センターを支える会
よろしくお願ひします。

